

平成31年度 学校評価実施報告書

学校名 (岡崎中学校)

教育目標

「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高め,
確かな学力・豊かな心・健やかな体を備えた生徒の育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し この数年間、生徒たちは落ち着いた環境の中で学習に取り組めていると思う。全国調査や学習確認プログラムの結果を見ても、教科により課題は残るもの生徒は頑張っていると感じる。しかし、3学年とも理科・数学に課題があることがわかる。各教科担任の指導力にもっと工夫が必要なのか、しっかり見極め分析をする必要があると感じる。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校の教育目標や学校行事、経営方針、生徒の活動については一定の評価をいただいている。生徒たちが地域で迷惑をかけることもほとんどなく、落ち着いた様子で中学校生活を過ごし、学習や部活動、生徒会活動、学校行事（体育祭・文化祭・合唱コンクールなど）を頑張っている姿にも評価をいただいている。今後も継続して努力してほしいと、ありがたいお言葉をいただいている。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	11月26日	PTA会長および学校運営協議会理事
最終評価	3月18日	PTA会長および学校運営協議会理事

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業と「家庭での自学自習の定着」を柱とするカリキュラムマネジメントの実現

具体的な取組

- 教科主任会を活用し、月ごとにカリキュラムマネジメントの表を作成する。
- 習得した知識・技能の活用や探究的な学習活動を意識した学習方法を徹底する。
- 家庭学習の充実を図る。
- 言語活動やICT活用などを取り入れ、興味関心を高める授業改善を推進する。
- 総合的な学習の充実で、学習意欲の向上や探究的な活動の推進を図る。
- 朝読書を通して、本や新聞を読むという習慣をつける。
- 教科担任、学級担任、部活動顧問との連携を深め、学習指導と生徒指導の充実を図る。
- 小中の授業交流を図る。
- 各教科の教科会を充実させる。
- 教育活動を資質・能力の向上に結び付ける。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学習確認プログラムテスト及び全国学力・学習状況調査の分析結果
- ・各教科アンケートの結果
- ・授業参観、学級（学年）懇談会の際の保護者の意見
- ・教科主任会での内容の検証

中間評価

各種指標結果

落ちついた環境の中で生徒たちはしっかり頑張っていると感じる。3年生の全国調査では英語・国語・数学とも生徒たちはよく健闘したと思う。「主体的・対話的で深い学び」を意識した教科指導法の徹底や校内研究授業、家庭学習、みらスタ、夏季(冬季)学習会など校内体制でしっかり取り組めた結果だと感じる。しかし、1・2年生の学習確認プログラムの結果を見ると特に理科・数学に大きな課題がある。各教科担任はその原因をしっかり分析し、教科指導法を見直し学力向上に向けた教科会の充実や校内研修会でも改善法を話題にしながら、学校体制で取り組んでいきたい。

自己評価

分析（成果と課題）

本校の生徒は自分の得意教科は進んでやるが、苦手教科は後回しにする傾向がある。好きな教科・得意な教科だけを頑張るのではなく、苦手教科にもしっかり時間をかけバランスよく弱点を克服する必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

3年生の授業態度は落ち着いたものがあるものの、1・2年生は3年生に比べると少し落ち着きがなく、人の話を静かにしっかり聞くということができていない生徒が数名いる。3年生と同じような結果を出すためには、生徒指導面、家庭学習、各家庭との連携などがより一層必要だと感じる。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- 学習確認プログラム結果
- 生徒アンケート
- 家庭学習や基礎テスト

学校関係者評価

研究協議の後、各学年の授業の様子（4限）を見学していただきました。「今の落ち着いた学習環境を、今後も維持できるような学校経営を期待します。」というお言葉をいただいた。また総合的な学習の取組の1つである、キャリア教育に関する「無窮講座」を今年度も16講座開設することができた。各講座の指導者に学校運営協議会の推進委員さんたちにお世話になっているが、今後も継続して協力するというお言葉をいただいた。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

中間評価時に設定した指標結果はある程度達成できているのではないかと感じる。1年生と2年生の学習確認プログラムテストの結果を分析すると、各教科の指数が向上している。1年生の1～2月のBasic、2年生のPre3の結果を見ると学年、教科によって差異はあるが、5教科ともよく健闘したと思う。ただ、中間評価時にも報告をしたが、本校は数学と理科に課題はある。本校の英語科は今年度「ユニット・ラウンド制指導法」の研究指定を受け、研鑽を積んだ。教科会を何度も開催し、教科担任が情報交換や協議を行った。指導主事や大学の先生にも来校していただいて指導を仰ぎ、研究

を進めた。英語以外の教科でも授業中に生徒の顔が自然と上がるような授業、生徒が「授業を受けていて楽しい。」と言うような授業づくりを今後も進めたい。

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	各教科一定の成果は認められましたが、数学と理科の得点力向上はまだ課題が残っている。生徒アンケートを分析すると、好きな領域と苦手な領域がはっきりしている。生徒が興味を抱かない領域にいかに興味を持たせて、学習意欲を向上させるのかが次年度への課題である。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	生徒の学力向上には教科指導力が大きな要因であることは間違いないが、生徒指導面や各家庭の協力体制、様々な学校行事を通じた自己肯定感や自己有用感を高めることも大きな要因の一つだと思う。学校の果たす役割はとても大きいと感じる。教職員が同じ方向を向いて様々な角度から生徒に励ましの声かけなどをし、学校全体で取組んでいきたい。

（2）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標	道徳の評価方法を深めるとともに、特別活動・総合的な学習の時間を一体化した指導を目指す。
	具体的な取組
（取組結果を検証する）各種指標	道徳の時間や「いのちを考える教室」などで「いのちの大切さ」を認識させ、自他ともによりよく生きる態度を培う。 <ul style="list-style-type: none">○ 生徒一人ひとりのよいところを教職員が見つけ、褒め、伸ばしていくことを意識して声かけをする。○ 生徒一人ひとりが学校生活の行事や学級、部活動などで成就感や達成感を感じ「活躍できる場面」を意識的に設定する。○ 総合的な学習の時間や特別活動との関連を図り、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れ、道徳的価値の理解を深める。○ 生徒会活動、生徒の主体的・自発的な活動を重視するとともに、集団生活の楽しさを実感し、体験させる。○ 道徳の時間に、研究授業や校内研修会、支部授業研などを通して教材の開発や、授業の手法の研究を進める。
	<ul style="list-style-type: none">・「地域行事に参加していますか。」の変容・「他者に貢献する活動を行っていますか。」の変容・道徳研究授業協議結果の振り返り・「いじめは絶対にいけないことだと思いますか。」の変容・クラスマネジメントシート等の結果推移

中間評価

自己評価	各種指標結果
	全国調査の「生徒質問紙」の各項目アンケートの中で「規範意識・自己有用感」や「生活習慣・学習習慣」に関する項目があるが、「生活習慣」は全国調査と比較してさほど差異はないが、「学習習慣」の家庭での本校の学習時間は全国平均を上回っている。ただ、学習塾や家庭教師の時間を含むという注釈があるので外部の力によるものが大きいと言えるかもしれない。
	分析（成果と課題） ここ数年に比べ差異は小さくなったものの、「規範意識」「自己有用感」に関する項目のアンケート結果は全国や京都府の平均を下回っている。キャリア教育・市民性・ESDなど学校構想の柱の充実を進めていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 毎年6月と11月に道徳の公開授業を行っている。6月は休日参観、11月は公開授業後、学年毎に研究協議を行い、研修内容を深めている。道徳教育の充実だけではなく、伝統文化や芸術を通じ、豊かな感性や情操を育む教育の充実、支え合い高め合う集団づくりの推進と絆づくりを目指して行きたい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none">○公開授業等研究授業に向けた道徳授業研修の充実○生徒アンケート結果○「いじめ」や「きまり・校則違反・約束違反」「補導問題件数の減少」○学校運営協議会理事会の意見
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校の役割だけではなく、各家庭や地域の果たす役割の重要性について、積極的なご意見をいただき理解をいただいたものと考えている。特に「軽や生活習慣」「規範意識」「自己有用感」に関して各家庭(保護者)の果たす役割が大きいと理事さんたちは言われますしその通りですが、生育歴や家庭事業が複雑な生徒がいるという事実をお伝えし、納得いただく場面もあった。

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果
	各種指標結果は中間評価時と大きな変化はない。ただ、2~3年前と比較すると少しずつはあるが、良い方向へと生徒の心の変化が見られるようになっている。すべての生徒が友だちのよさを見つけ、互いに協力し合い絆を深めるとともに、自己肯定感、自己有用感等の自尊感情を高められように取り組みたい。 「豊かな心の育成」の変容は短期間で測れるものではなく、様々な学校行事や取組を通して長期的なスパンで心の変容を把握したい。
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 とても落ち着いた環境の中で日々教育活動を進めている。あいさつの励行、学習規律の徹底、基本的生活習慣の確立、生徒会活動の指導を通して生徒が望ましい人間関係を築き、集団生活の一員として協力する態度を育成している。毎朝、8時過ぎから正門に立ち生徒たちに挨拶をしている。ほとんどの生徒は挨拶を返してくれるが、下を向いたまま黙って学校に入る生徒もいる。またスマートフォンの普及で、インターネット上の誹謗中傷で友人を傷つけるような事案もあり、生徒たちに正しい判断力を身に付けさせたい。「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通つ

	た指導」を学校体制で進めたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>来年度から2年間「しなかな道徳」教育研究指定を受けることが決定している。研究指定を受けたことをチャンスとして捉え、校区の小学校2校とも十分に協議をしながら取組を推進していきたい。問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れ、多様な実践活動を生かして、道徳的価値の理解を深める指導の充実を図りたい。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校の役割だけではなく、各家庭や地域の果たす役割の重要性について、積極的なご意見をいただき理解をいただいたものと考えている。特に「躾や生活習慣」「規範意識」「自己有用感」「自己肯定感」に関して各家庭(保護者)の果たす役割が大きいと理事さんたちはいつも言われる。学校だけではなく、保護者の果たす役割が大きいと言われるが、生育歴や家庭環境の複雑な生徒がいるという事実を再度お伝えし、納得していただいた。</p>

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>ESDの柱として、健康教育・防災教育を重点とする。</p>
	<p>具体的な取組</p> <p>「いのちを守る」ことの大切さを基盤にして、以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自らの健康のために食習慣や生活習慣の在り方を考え、実践しようとする生徒を育成する。 ○1・2年生で「防煙教室」「非行防止教室」、3年生で「薬物乱用防止教室」「性教育指導」を専門家である外部講師の力を借りて、進める。 <p>防災意識を高め、安全、防災教育の充実・発展を図る。特に、災害時に自らの命を守る自助の力、他の人の命を助ける共助の力を育成する。</p>
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒質問紙「自分には良いところがあると思いますか」 ・「友達の前で自分の意見をはつきりと言えますか」 ・委員会アンケートへの回答 ・避難訓練等防災行事でのチェック項目の結果 ・各講演会の感想文等

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>「いのちを守る」ことの大切さを基盤に「非行防止教室」「薬物乱用防止教室」「性教育指導」などを外部講師を招いて実施している。予定通り、健康教育を推進出来ていると思う。</p>
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>「薬物乱用防止教室」を行っているが、大麻などの薬物は中高生に全市的な広まりを見せているようである。本校も教職員がアンテナを高くして、一層指導にあたる必要がある。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>本校の学校構想の柱の1つであるESDとして、「防災教育」「健康教育」に重点を置いている。こ</p>

	<p>のことが実質的に機能するよう取組を推進していきたい。また本校独自の取組の「ヘルスウィーク週間」を設け、エイズ教育や食教育などの学習にも力を入れている。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事や睡眠など普段の生活等に関する「ヘルスウィーク」でのアンケート結果 ・生徒質問紙 ・保健室への来校生徒の状況を補導部会で共有する。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>現在の岡崎中の取組を推進・維持できるように PTA や学校運営協議会もバックアップしますというお言葉をいただいた。薬物が中高生でもスマホなどで簡単に手に入るような時代なので、学校が果たす役割がとても大きいし、すごく期待されていることを実感した。</p>

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>「薬物乱用防止教室」や「性教育指導」をはじめ、様々な取組に外部講師をお招きして生徒たちに直接お話をさせていただき、指導していただいた。話を聞いた後の生徒たちの感想文を読んでみると「知らなかつたのでとても勉強になりました。聞いてよかったです。」というような意見が多かった。教育委員会各課の方々、学校薬剤師さんなどには</p>
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>「いのちを守る」という視点の指導は生徒たちにも行き届いていると思う。ただ、保護者や教職員が知らないところでの生徒たちの行動にはやはり一抹の不安はある。生徒たちを信じることは基本であるが、ネット上での勧誘あるいはつい誘惑に負けるような可能性はあるので日頃の生徒たちの言動をしっかり観察し、保護者とも情報共有し、連携を図りたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>大きな取組の改善は必要ないと思う。現在の取組をしっかりと継続しながら、生徒たちの様子や反応を観察し、教職員の意見を取り入れながら、その都度再考していく。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>現在の岡崎中の取組を推進・維持できるように PTA や学校運営協議会もバックアップしますというお言葉をいただいた。違法薬物は「子ども一人ひとりの身近に迫っている」という強い危機意識を、教職員・保護者・地域が共有し、自らの命だけでなく、家族や友人の人生を狂わすことも理解させるよう指導してほしいという言葉をいただいた。</p>

(4) 学校独自の取組

	<p>重点目標</p> <p>六校（岡崎中・近衛中・錦林小・第三錦林小・第四錦林小・北白川小）で、目指す子ども像を共有し、より効果的・効率的に子どもたちの生きる力の育成を図る。</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「六校夏季合同研修会」の内容の吟味や有効活用の検討 ・六校の校長会・教務主任会の定期開催（各々年 6 回） <p style="margin-left: 2em;">(取組の計画・問題点の洗い出し、具体的取組の推進・情報交換等)</p> <p>○構想図を基に「授業改善」を軸とした取組を実践する。</p>

- ・教育課程の編成や指導形態を工夫・改善し、9年間一貫した体制を構築することで確かな学力の定着を図る。

- ・各校の研究授業等や学校行へ積極的に参加し、学習内容の情報・意見交換をする。

○六校の交流の取組を合同事業とし、9年間の連続性を持つ教育活動を展開する。

- ・子どもたちの交流や教職員間の連携と協働を深め、小中交流事業を岡崎中ブロックと近衛中ブロック合同で進めていく。

(部活動体験、生徒会交流、模擬授業等の同一日開催と内容の統一)

- ・校務分掌や教科別の部会を設置し、それぞれの部会での交流を定例化する。

(研究主任、生徒指導主任、総合育成教育主任、養護教諭、事務職員、国語科、算数・数学科、英語科主任、道徳主任、生徒会・児童会主任など)

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学習確認プログラム結果
- ・不登校生徒の減少
- ・小中間の（中1ギャップ）の解消
- ・道徳教育の一貫性
- ・総合的な学習の一貫性
- ・事務室の連携による効率化

中間評価

各種指標結果

- ・全国学力・学習状況調査の結果は向上している。
- ・小中六校連携は、校長・教務主任は2ヶ月に一度会議を開催し、情報交換や取組の検証を行っている。また夏季合同研修会前は各教科や各分掌のチーフが集まり情報交換をしている。
- ・緊密な小中連携により不登校生徒の減少を目指す。

自己評価	分析（成果と課題）
	小中六校連携で各校の学校構想図やカリキュラムマネジメントのやり方などを統一することで確認が取れたことが大きな収穫である。
	分析を踏まえた取組の改善
	管理職や教務主任レベルでは六校の学校構想図などの確認は取れたが、全教職員の意識や周知はまだまだ進んでいるとは言えない。今後、研修会を重ねる必要があると考えている。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・六校各校での学校構想についての研修会 ・小中合同学校運営協議会の実施の検討
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	以上の内容についてはご理解をいただいている。小中合同学校運営協議会は実施方法や取組内容を検討していく中で、休日の土曜日・日曜日に教員も生徒も活動することが予想され、働き方改革に逆行する形になるので、内容については今後の再検討課題である。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
・本校も近衛中学校も「全国学力・学習状況調査」「学習確認プログラム」の結果は「指数」も「順位」も健闘し、頑張っている。	
・小中間で緊密な情報交換をしているので、保護者対応、不登校傾向の生徒、発達に課題がある生徒への対応がしやすくなった。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 小中六校で各校の学校構想図やカリキュラムマネジメントのやり方などを統一することができた。管理職・教務主任は2ヶ月に1度、会議をしながら顔を合わせているが、他の教職員は夏季合同研修会の前後以外はほとんど交流が出来ていない状況である。六校の教員が各係で打ち合わせをする時間調整も難しい状況がある。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善 六校夏季合同研修会を始めて5年が経過した。毎年少しずつ研修会の内容や持ち方を変えながら、進めている。六校の校長も毎年少しずつ変わる中で、小中一貫教育をしっかり進めていきたい。「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成に向けて学びと育ちを義務教育9年間の連續性のもとでとらえ直し、岡崎中・近衛中が中心となって更なる充実に取り組みたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 六校の取組の内容についてはご理解をいただいている。小中合同学校運営協議会は実施方法や取組内容を検討していく中で、休日の土曜日・日曜日に教員も生徒も活動することが予想され、働き方改革逆行する形になるので、内容については今後の再検討課題である。

（5）業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標	
教職員一人一人が勤務時間を意識しながら効率よく業務を遂行し、生徒と向き合う時間を大切にする。	
具体的な取組	
・学校行事を精選する。 ・部活動ガイドラインを遵守する。 ・電話対応時間を午後7時30分までとし、以降は留守番電話に切り替える。	
(取組結果を検証する) 各種指標	
・教職員の勤務時間の把握 ・年休取得率	

中間評価

各種指標結果	
・出退勤システム導入の結果、少しずつではあるが教職員の意識がいいほうに変化している。 ・定期テストの日で部活動がない日は時間休や半日休を取得する教職員が増えている。	
自己評価	分析（成果と課題） ・今年度、校務支援員（週15時間）を配置していただいたこともあり教職員の働き方改革への意識が変化したように感じる。

価 値	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職が先頭に立ち、積極的に帰宅時間の声かけを続け、退勤時間が早くなつた。 ・部活動ガイドラインの内容を年度途中にも再度共通理解をし、教員の意識の向上に取り組んだ。 ・各教員の授業の担当時間数や各分掌により教員の仕事量に個人差が生じることに対して、管理職が今後どう対応していくのかが課題である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き、校務支援員の配置を希望する。 ・部活動ガイドラインの内容の徹底 ・学校業務に関するデータの管理や引継ぎの徹底
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムによるデータの確認 ・部活動ガイドラインの内容に沿った部活動運営の徹底

最終評価

学校 関 係 者 評 価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムの導入により、教職員の意識がいいほうに変化している。 ・今年度、校務支援員を配置していただき、業務の効率が図られた。 ・教職員が仕事にメリハリをつけ、早く退勤する教員が増えた。
自己 評 価	<p>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>年度始めと年度終わり、定期テスト1週間前(テストの作成)、体育祭や文化祭などの大きな学校行事があるときは退勤時間が遅くなるが、それ以外は教職員が自分の仕事にメリハリをつながら、早く退勤する職員が増えた。ただ、退勤時間が遅くなる教員は同じメンバーの教員が多いので、個別に話を聞きながら管理職から継続指導をしていきたい。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>準備委員会の会議で、新年度の教職員の校務分掌を決定する。各分掌主任、担任・副担任、部活動の担当、各教科の担当持ち時間数などを決定するが、今年度の校務分掌表を見るとやはり仕事量に偏りがあった。管理職からどうしてもお願いをしなければならない状況もあるが、教員としっかりとコミュニケーションを取りながら、不公平感を感じないで1年間職務に全うできるような校内体制を築きたい。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午後7時30分に電話を留守番機能に設定することは引き続き、賛同をいただきました。 ・部活動ガイドラインの内容は理解をいただきましたが、各保護者の部活動に対する思いは様々なので引き続き保護者にも賛同を求めていきます。 ・指導等で遅くまで学校に残らなければならないこともあるだろうが、できるだけ早く退勤できるような体制を構築してほしいとの意見をいただきました。